

1. 実況上の着目点

- ① 前線が西日本から日本のはるか東へのびている。前線近傍の九州周辺では激しい雨を解析している。
- ② 沖縄本島付近には、大型の台風第2号があって北東進。台風の影響により、沖縄地方では非常に強い風が吹き、南西諸島では猛烈なしけとなっている所がある。
- ③ 中国東北区には、500hPa 5580~5640mのトラフがあって東進。

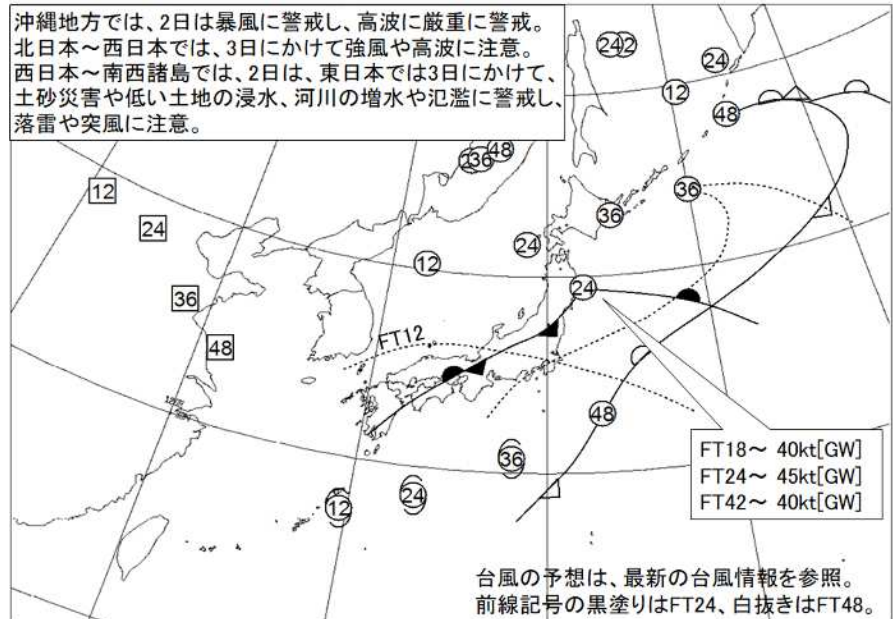
2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 台風は2日朝にかけて沖縄地方を通過するため、非常に強い風が吹き、波がうねりを伴い、大しけや猛烈なしけとなる。その後台風は3日にかけて日本の南を東北東進するため、西~東日本太平洋側を中心にうねりを伴い波が高くしけとなる見込み。南西諸島では2日は暴風に警戒し、高波、高潮に厳重に警戒。西~東日本では3日にかけて強風やうねりを伴った高波に注意。
- ② 南西諸島では、2日は台風周辺の発達した雨雲がかかるため、大気の状態が不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨が降り、大雨となる所がある見込み。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項①の前線は2日朝にかけて本州付近を北上。その後1項③のトラフの接近により本州付近の前線上に低気圧が発生する見込み。低気圧は3日にかけて発達しながら北東進し、低気圧からのびる前線が本州付近を南下。低気圧や前線に向かって2項①の台風や日本のはるか東に中心を持つ高気圧からの下層暖湿気が流入するため、大気の状態が不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨が降り大雨となる見込み。中国、四国、近畿、東海地方では、2日から3日にかけて、線状降水帯が形成されやすい気象状態となることに留意。西日本では2日は、東日本では3日にかけて土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ④ 北日本では、日本の東に中心を持つ高気圧と、オホーツク海の低気圧や2項③の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、3日にかけて風が強くなり、波が高くなる見込み。強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本。量予想や降水分布、風はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報と根拠】**
- ①大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：東海・四国350、近畿300、関東甲信250、北陸・中国180、伊豆諸島、九州北部150、東北、九州南部120mm。
 - ②波浪(明日まで)：沖縄・奄美9、関東・伊豆諸島・九州南部6、東北・東海・近畿・四国5、北海道・九州北部4m。
 - ③高潮(明日まで)：全国的に注意報基準を超える所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第2号に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図